Ⅰ—1—26 鎖骨体部骨折に対する経皮的ピンニング法の工夫

浜脳整形外科病院
〇森寺 邦晃（もりでら くにあき）、畠山 英嗣、今井 一彦、
重野 陽一、村瀬 正昭、浜脳 純一

【目的】転位を伴う鎖骨体部骨折に対し、当院では原則的に最小侵襲手術である経皮的ピンニング法を第一選択としている。これらの症例中 Kirschner 鋼線1本では術後脱転し再打ち込みが必要となる症例があり、このような骨折型に対しては2本の Kirschner 鋼線を用いてきた。その術後成績を検討した。【症例および方法】1997年より2002年までの5年間に経皮的ピンニング法を行った139例を対象とした。96例は Kirschner 鋼線1本（以後S群）、43例は Kirschner 鋼線2本（以後D群）を使用した。この2群を Kirschner 鋼線の術後脱転率で比較検討した。【結果および考察】S群では96例中5例に、D群では43例中1例に再打ち込みを要する脱転を認めた。Kirschner 鋼線2本による固定のほうが1本に比べ術後脱転しにくい結果であった。また、骨癒合期間、合併症についても検討し報告する。

Ⅰ—1—27 痛撲発作による両肩関節脱臼骨折の一例

新小倉病院 整形外科
〇高田 眞一（たかだ しんいち）、肱関 昭彦、福田 文雄、
小田 聖人

痛撲発作による両肩関節脱臼骨折に対し観血的治療を行ったので報告する。症例は66歳の男性で、平成14年4月、てんかん様発作の後から両肩痛出現。転倒等の明らかな外傷は認めなかった。当院紹介受診時、X線像で右肩 Locked posterior dislocation, 左肩 4-part 脱臼骨折を認めた。合併症として肝硬変、高血圧症、うつ病があり、両肩同時手術が困難であった為に、受傷後1日目に右肩人工骨頭置換術施行。1週間後に左肩人工骨頭置換術施行した。右肩は骨頭の3/4が後方に脱臼し、臼蓋に陥入していた。退院時、右肩屈曲120°、左肩屈曲90°であった。